

姫路支部だより



Contents.

1 8月の支部活動報告
9月の活動予定

2 姫路建築探訪
8 環境デザイン研修会レポート



8月の姫路支部活動報告

8.1(土)ーものづくり体験講座 模型体験
10:00～13:00 関戸 長水 西脇

8.5(水)ーものづくり体験講座 模型体験
10:00～13:00 岸 森澤 西脇

この度、兵庫県立ものづくり体験館より依頼があり、姫路支部の有志により建築模型作り体験講座を行いました。夏休み期間中ということもあり、多くの子供たちに親子で参加していただきました。本講座は一番人気で直ぐに定員いっぱいになったそうです。対象者は小、中学生12名(保護者同伴)で、参加者は皆さん、一生懸命に模型作りに取り組んでいました。



8.19(水)ー環境デザイン研修会(詳細は後述)
8.27(水)ー第5回建築相談(姫路市役所)

8.29(土)ー基礎構造研修会(じばさんビル)

9月の活動予定

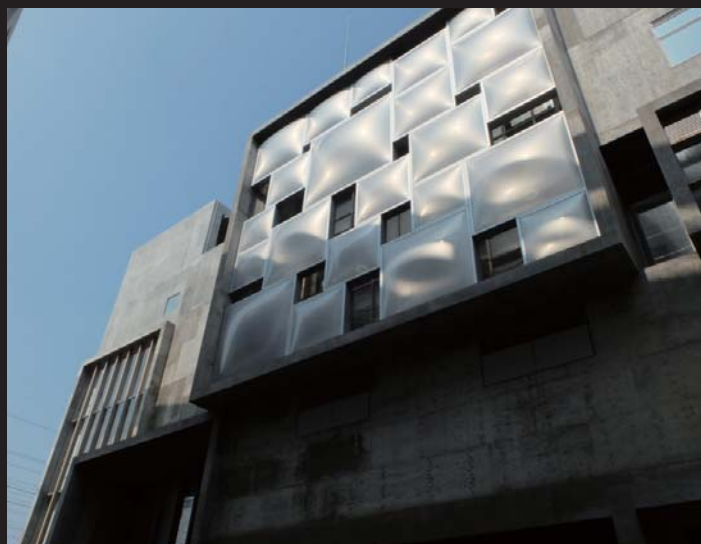
Wed.16 第4回環境デザイン研修会(姫路建設会館)

Sun.29～Mon.30 世界遺産富岡製糸場見学会

Thu.24 第6回建築相談(姫路市役所)



中学生等を対象に職業としてのものづくりの魅力と奥深さを伝えるために作られた施設で、道具箱を積み重ねたイメージの外観デザイン。



建物で使用されている素材の種類がとても多く、コンクリート型枠だけでも様々な素材が使われ、場所によって趣きが違っている。



エントランスの庇は鋼板が素地で使われ、自然に錆を発生させ素材のもつ特性が表れています。



内部も意図的に天井が張られていない部分を設けて通常は隠れている配管、構造材などを露出させており、利用する子供たちに建物の出来る過程を創造してもらえます。



各所に地場産業の製品が使われ、1階の展示スペースには技能士の技やものづくり企業の製品を展示されています。

この施設を利用した子供たちがものづくりに興味を持ち、建築の現場でも活躍してくれるかもしれません。

竣工 2012年11月
 開館 2013年1月
 設計 遠藤秀平建築研究所
 構造 鉄筋コンクリート造
 規模 地上5階 / 床面積 2964.00㎡

姫路市市之郷 1001 番地 1



北西より 2015/8

ヤマトヤシキ姫路店は姫路で唯一の村野藤吾氏(1891-1984)による設計の建築物である。



村野藤吾氏は、国の重要文化財に指定されている「広島世界平和記念聖堂」をはじめ、昭和の数多くの名建築を手がけた関西を拠点とした建築家であるが、モダニズムとは一線を画したその有機的な造形に対する評価は今でも高い。

関西での商業建築では、2003年に惜しくも解体された そごう大阪店が有名である。

ヤマトヤシキは、一見、村野藤吾氏の設計とは分からないが、唯一？南側の塔屋のデザインは、そごう大阪店のファサードを思い出させてくれる。

南西より 2015/8



南東エントランス 2015/8



北東より 2015/8

敷地を「田」の字に分けて増築が行えるようにされており、1951年に鉄筋コンクリート造4階建の竣工後、1957年地上8階高さ43mの当時播磨一の高層ビルに増築をし、1981年までに4回の増築を行って売り場面積約17,000m²にまで拡張した。



1951年竣工当時（神戸新聞 HP より）
この写真は南東方向からのものだと思います。今も面影が残っています。

ヤマトヤシキ姫路店
建築年 1951年～1974年
設計 村野藤吾



【概要】

今から約 400 年前に、兵庫県神崎郡で酒造りを始めた。しかし酒が腐ってしまう年が連続して続き、文化 2 年（1805 年）現在の同県姫路市夢前町（旧飾磨郡夢前町）に移転した。

「播州弁の理解できる酒造り」をモットーに、1990 年頃より播州（夢前町）の気候風土に酒をすべて預けるといふ自然醗酵を実施。



【自然醗酵とは】

その土地の気候風土を酒に伝えるため蔵内に温湿度管理機器を一切使わず、蔵の入口の扉の開閉だけで室温管理を行い、品温においても酵母の自然に発熱を委ねる方法。



【感想】

建築業界も伝統的な木造工法など先人が育んできた技術が失われつつあるが、日本酒に関しても同様に日本酒離れがここ数年叫ばれている。

そんな中でも元気一杯頑張っている日本酒を専業とし旧夢前町で唯一の現存する酒造業者である『壺坂酒造』にお邪魔しました。

今回は『壺坂酒造 真夏の蔵開き』の日に合わせてお伺いし、酒蔵の中を見学することが出来ました。

酒蔵は築200年以上が経過しており、あくまで酒蔵（作業場）であるので凝ったデザイン等は全く無いが、太い柱、太い梁のある酒蔵内は日本酒作りの職人の魂が乗り移っているであろう歴史観や存在感は充分感じた上で、作業効率を考えて作られたであろう、二階の床板をはずして醸造甕への麴投入や天秤搾りができる珍しい構造になっている部分も見せていただきました。

今回は外観と直売所のみで見学でその他の部屋は残念ながら見る事が出来なかったが、本社社屋は商家には許されていなかった三間続きの座敷を板戸で切り離すなどの工夫が凝らされているようです。

これらの特徴により2006年度に姫路市によって本社社屋が『都市景観重要建築物』に指定されました。



追伸：この数年『米のワイン』とも言われる日本酒がヨーロッパでの市場を拡大しておりロシアでは1杯1万円で飲まれている日本酒もあるようです。

日本酒も古い日本家屋も外国人から見たらものすごい価値があるようです。

この価値観が日本人にわかる様になれば日本文化が廃れないような気が・・・

名称：壺坂酒造株式会社（つばさかしゅぞうかぶしきがいしゃ）
所在地：姫路市夢前町前之庄 1418-1

◆概要

・テキスト「住宅設計と環境デザイン」の談義（6章《今回は5章～》）

◆研修会の進め方

・テキストを読み終えるときには、次にすることを決める。

・実物件での実測、検討

◆参加者からの話

■6章 内装・外装を考える

・「断熱・気密セミナー」（7月30日 兵庫県建築士会研修委員会主催）に参加して高気密化、高断熱化の推進。快適性・省エネ性・健康・耐久性のために必要。「高気密化、高断熱化すると、どれだけいいことがあるか。（得するか。）」と、「少しでも施工ミスなどがあるとどれだけリスクがあるか。」について具体的な事例を使って解説。

例) 住宅内での心肺停止の件数・・・兵庫県は全国で2番目に多い。

例) 気流止めの設置もれでカビが発生する。

例) 「iPhoneに装着できるサーモカメラ (FLIR ONE 熱探知カメラ付きケース for iPhone /5s ¥24,800 (税別)) を使うと、壁の表面温度がわかる」「気密が出来ていない箇所も視覚化される」「サーモカメラで調べることを、一般の人に勧めている学者もいる。」

「見学会や展示場で計測する人が出始めるのでは（欠陥探し?）」「その前に、きっちり断熱・気密をしましょう。」

⇒少しの施工不備は許容できるような、丁寧なおおらかな設計が必要では。温度差や湿度、漏気、結露・・・といったものの緩衝する素材を取り入れることを考えてみる。

山田からのコメント

この数年、耐震や省エネに関する書籍や記事、講習などでは、安心・安全、快適性、（お金が得するという）補助金・金利優遇による誘導といった「アメ」と健康被害や耐久性の問題、欠陥の恐れなどを誇張（脅しではと思うこともある）する「ムチ」とを使っての説明されているものが多く、嫌気がさすことが多い。

家づくりの現場で、建て主に対しても、「アメ」と「ムチ」を使って判断をせまるやり方は、ものづくりの現場には向いていないと思う。逆に、作り手に対して、少しのミスが大きなクレームになるといった脅しも、ものづくりの現場に向かない。「基準にさえ則ってさえいればよい」というふうに、思考が止まってしまう。

家づくりの本質を考えて、関わる人が知恵を出し合って、ものをつくっていく。そういう「ものづくり」のあり方を前提にした「丁寧でおおらかなデザイン」を探っていきたい。

・実物件での断熱計画の提案①（昭和50年代の木造住宅の改修）

木造在来構法、土壁（荒壁）有り、瓦葺き（土葺き）、布基礎、断熱無しの断熱改修。

土壁を残して外張り断熱を施工することで、土壁のいいところを生かす改修を考える。

→調湿性（表面結露対策）、吸湿性（壁内結露対策）、蓄熱性、柔らかな構造・・・

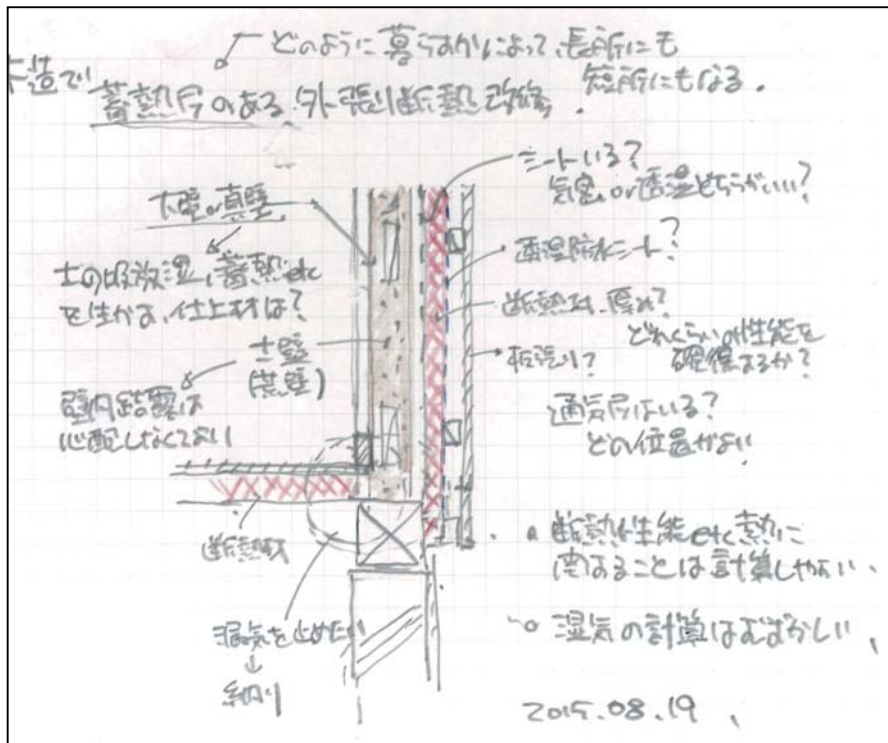
風の通りなど間取りと開口部の配置計画。シミュレーションで視覚化・・・

昔から地域で培われてきた技術の延長に環境デザインを考える。研究対象になるようであれば、兵庫県立大学と連携して進めたい。

・実物件での断熱計画の提案② (明治中期の町家の改修)

木造伝統構法、土壁 (荒壁) 有、
 瓦葺き (土葺き)、石場建て、
 断熱無しの断熱改修
 外壁は断熱できない。
 屋根と床の断熱は・・・

気密の確保は・・・
 当時の技術を詳しく調べたうえで、現代の技術を適切に使う。
 伝統的な建物の良さを壊してしまう (時には致命的な欠陥を生み出す)
 改修の事例を目にすることが多い。



・その他

床断熱と基礎断熱。床下をどう考えるか(室内と扱うか? 屋外としてみるか)

吹き付け断熱材を使ったリフォーム
 土壁と断熱材の関係。室内に設けるか室外に設けるか?

⇒室内側にすると熱容量系が室内に入るので、冷暖房が最初は効きにくいがある程度すると室温が一定になる。

⇒土壁の調湿機能：厳密には分かっていない。仕上げ材に左右される (糊、シーラー系を使うと調湿ができない。

断熱効果の測定方法：冬にストーブをつけて外からサーモグラフィで計測。

湿度の計測・コントロールは難しい?

・換気設備

換気扇はフィルターの掃除などこまめなメンテナンスが必要。

エアコンに頼ろうとすると、断熱・気密が必要。

空気を動かすと、ホコリ、ごみがたまる。

花粉対策。

(以上議事録より)

◆次回の予定【原則第3水曜日】

・9/16 (水) 20時～22時まで 姫路建設会館にて 継続して参加できる方はご出席ください。
 問い合わせ 山田副支部長まで